

門 司 中 だ よ り

平成27年10月28日
北九州市立門司中学校
文責 校長 野村 克治

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」を、平成27年4月21日（火）に、3年生を対象として「教科（国語・数学・理科）に関する調査」と「生徒質問用紙」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。本校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるものは、学力の中の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力の向上を目指した取組をおこなっております。今後とも、本校学校教育へのご理解とご協力をお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

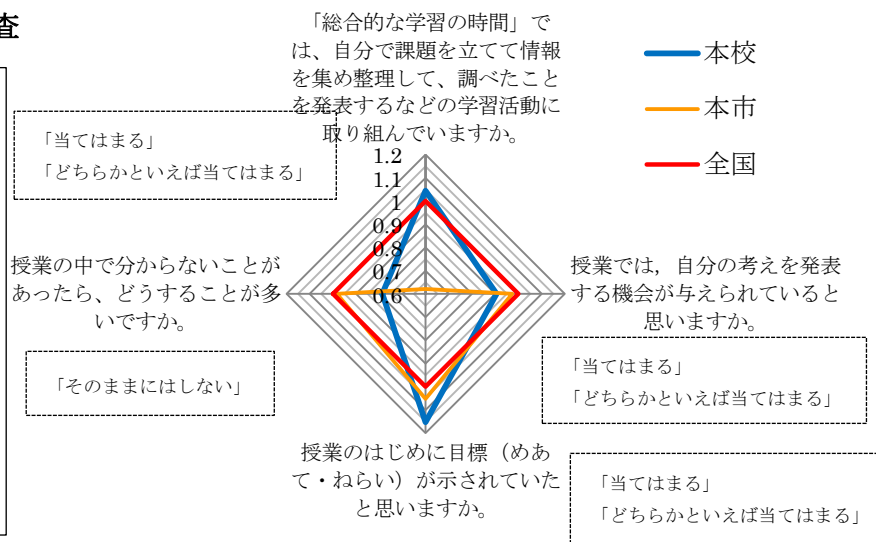
カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語A	全国平均正答率を下回っている	改善の傾向が見られるようになり、「漢字を読むこと」は正答率が高かったが、「文脈に即して漢字を正しく使うこと」や、「単語の識別」など、言語についての知識・理解・技能に課題が見られる。
国語B	全国平均正答率を下回っている	本市平均正答率を若干上回っており、改善の傾向が見られた。表現の工夫について自分の考えをもつことはできるが、文章の構成や展開などを踏まえ自分の考えを書くことに課題が見られる。
数学A	全国平均正答率を下回っている	昨年より全国平均との差が徐々に縮まり、改善の傾向が見られる。特に基本的な計算問題に成果が表れている。しかし、数学的な技能、知識、理解において課題が見られ、今後の指導を必要とする。
数学B	全国平均正答率を下回っている	昨年より全国平均との差が縮まり、改善の傾向が見られた。数と式については本校での正答率が高かったが、図形や関数、数学的な見方や考え方、発展的な学習と理解において課題が見られた。
理科	全国平均正答率を下回っている	グラフや実験結果の分析については、本校での正答率が高かったが、第一分野、第二分野の両分野において「知識」「理解」の面で課題が見られた。疑問点の解消のため、指導法の改善に取り組みたい。

②学校における学習状況に関する調査

・「総合的な学習の時間」の学習活動が、生徒が自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表する取組を通して向上が見られた。

・授業のはじめに目標が示されることは全国平均のポイントより高く、授業開始の取組の成果が表れてきている。

・授業でわからないことがあったら、先生に聞いて解決しようとする人が全国平均のポイントより高いが、そのままにしておく生徒も全国平均のポイントよりも高かった。

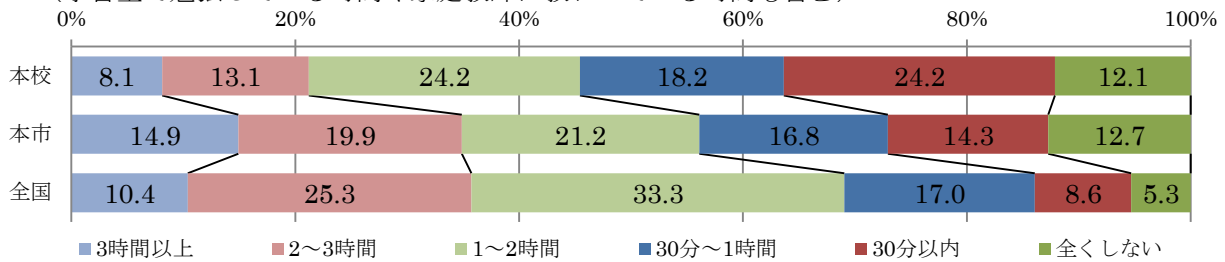


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

※学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか。

(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



家庭学習を全くしていない生徒は減少してきたが、1時間以上家庭学習をしている生徒の割合は、全国平均に比べて23ポイント以上も下回っている。また、家庭学習の絶対量が少なく、疑問点の解消が積極的に行われていない。目標をもち計画的な学習をすることで学習内容が定着し、学力向上につながることを自覚させ、学校と家庭で連携した学習習慣を身につけさせることが課題である。

② 生活習慣に関する調査結果と分析

自分の夢を実現させるため、具体的な目標を設定して努力する生徒が少ない。スマートフォンや携帯電話の使用が増加し、不規則な生活習慣になったり、人間関係のトラブルに発展したりするなど、学校生活や家庭学習の習慣に悪影響を与えている。ネット上のトラブル防止も視野に入れた、スマートフォン等の適正な使用の仕方や、将来を見通した進路指導、生活指導が今後も必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取り組み

- ・朝自習の時間に学力向上週間を全校で設定し、国・数・英を中心に基本的な問題を一週間単位で実施し、週末に確認テストを行う。上位者を掲示することで学習への啓発を図る。
- ・定期考査前に、学力向上の時間や放課後の質問教室を全校で設定し、疑問点の解消に学年単位で取り組む。
- ・授業時の「本時の目標」と「授業のまとめ」を全校で継続して取り組み、学習への積極的な参加と学習の定着を図る。
- ・夏休みには基礎学力の定着と錬成、冬休みや春休みに過去問題や活用する力のワークの活用を学年で取り組む。
- ・行事ごとに「書く」活動を取り入れることで書くことへの抵抗感をなくし、漢字の学習に際しては、漢字だけでなく文例を付けて学習プリントを作成し、文脈に即して正しい漢字の使い分けができるように国語科と連携し、学年で取り組む。
- ・国語力をつけるための指導の一環として、朝自習での「明日への伝言板」週間を継続して全校で取り組み、CDを聞いて内容を理解しその感想を書くことで、聞くことと書くことの向上に繋げる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭学習の重要性や意義、取組み方等について、「学校だより」で全校生徒や保護者に呼びかけ、家庭学習の重要性についての啓発や生活習慣の見直しについての意識付けを行う。
- ・自主学習ノートの作成や保護者との連絡ノート等、担任が毎日点検活動を行うことで、家庭学習の習慣化に学年で取り組む。
- ・長期的な休みには各教科で課題プリントを作成配布し、基礎学力の復習と定着、家庭学習の習慣化に学年で取り組む。
- ・定期考査の前には必ず学習計画表を作らせ、家庭学習の取組み状況についての保護者の確認や担任のコメントを通して、学校と家庭が連携して家庭学習の習慣化に努める。
- ・校区内の小中一貫した「生活のきまり」を配布し、生徒・児童の生活習慣の共通した指導と理解を連携して行う。
- ・音読暗唱ブック「ひまわり」の取組み等、小中一貫した繋がりをもたせることで、「学ぶ喜び」を実感させ、児童生徒の学習意欲の啓発を図る。